



## コミュニティ・スクールがスタートしました

帯広市では、10月より市内8つの小中学校でコミュニティ・スクール\*を導入しました。コミュニティ・スクールは、「どのような子どもを育てるのか」という目指す子ども像を学校・家庭・地域が共有し、その実現に向けて連携・協働していく取り組みです。

\*コミュニティ・スクール：「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に規定されている学校運営協議会を設置した学校のこと。

### イメージ図



### コミュニティ・スクールでどうなるの？

帯広市では、これまでも多くの方々に学校運営や子どもたちの育ちを支援していただけてきました。登下校の見守り、学習支援、図書ボランティア、放課後居場所づくり、PTA など様々な活動がありますが、これらの活動が大きく変わるわけではありません。

学校・家庭・地域が目標を共有して、今までの活動をより組織的・継続的に行えるよう体制を整えることにより、子どもたちがこれからの社会を生き抜くために必要な資質や能力を育みます。

### 【第1回協議会の様子】

コミュニティ・スクールを導入した8校5協議会で1回目の会議が開催されました。

それぞれ会長・副会長を選出した後、校長から学校運営の基本的な方針について説明があり、委員の総意により承認されました。

その後、どのような子どもを育てるのかという「目指す子ども像」についての協議を行ったり、具体的にどのような取り組みを行っていくかなどについて意見を出し合ったりと、活発な議論が行われました。



#### ※本年度のコミュニティ・スクール導入校

緑丘小学校、啓北小学校、つつじが丘小学校：1校で1つの協議会  
大空中学校・大空小学校：2校で1つの協議会  
帯広第七中学校・大正小学校・愛国小学校：3校で1つの協議会

→来年度以降も順次導入校を拡大し、3年程度ですべての市立小・中・高校でコミュニティ・スクールを導入する予定です。

#### ※コミュニティ・スクール協議会の役割

- ① 校長が作成する学校運営の基本的な方針を承認すること
- ② 学校運営について、校長又は教育委員会に意見を述べるができること
- ③ 教職員の任用に関して、学校運営の基本的な方針の実現に資する事項（特定の個人に係るものを除く）について、任命権者に意見を述べるができること
- ④ 学校が行う学校運営の状況に係る自己評価の結果等に対して、評価を行うこと
- ⑤ 学校・家庭・地域の連携・協働を推進すること
- ⑥ コミュニティ・スクールの運営について、地域住民等の理解、協力、参画等が促進されるよう情報を積極的に提供すること

#### あとがき

「“コミュニティ・スクール”は聞いたことがあっても、何だかよく分からない」という方が多くいらっしゃると思います。

学校で子どもたちに挨拶を指導しても、家庭や地域の協力がなければ、挨拶は定着しません。勉強も同じだと思います。学校・家庭・地域が、目標を共有して、同じ方向を向いている必要があります。そのための仕組みづくりがコミュニティ・スクールの大きな役割です。

この通信を通じて、各地域における様々な取り組みをお知らせしていきます。（担当：西尾）

裏面に「校長先生へのインタビュー」を掲載しています⇒

【令和元年12月9日発行】

帯広市教育委員会 学校教育部企画総務課 TEL：0155-65-4201

[https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/gaxtukoukyouuikubu/kikakusoumuka/community\\_school.html](https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/gaxtukoukyouuikubu/kikakusoumuka/community_school.html)





## 校長先生へのインタビュー

### 【緑丘小学校】（澤田校長先生）

第1回のコミュニティ・スクール協議会では、会長に保前明美さんが選出されました。

キャッチフレーズは、『「よんかけ」で育てよう！みどりの子』です。これまでPTAや地域で進められてきた「心をかけよう」「目をかけよう」「手をかけよう」「声をかけよう」の「よんかけ運動」を基盤にコミュニティ・スクールの取組みを進めていくことにしました。目指す子ども像について熟議を行い、委員の方々からたくさんのご意見をいただきました。



みどりっこクラブ防災教室



地域の方々にご協力いただいた川を教材にした学習

### 【啓北小学校】（塩田校長先生）

我が国は、現在、急激な少子化・高齢化の中にあり、2030年には65歳以上の割合は総人口の3分の1に達し、生産年齢人口は総人口の約58%にまで減少すると見込まれています。このような状況であるからこそ、地域に愛着と誇りを持ち、地域の諸課題を解決する力を備えた子どもを育成することが重要です。

本校では、「世代を超えて、みんなで楽しむ！」というテーマの下、「保護者や地域住民等とのかかわりを楽しもうとする子ども」の育成を目指して、学校・家庭・地域がそれぞれ楽しみながら目指す子ども像の具現化に向けた取組みを進めています。

### 【つつじが丘小学校】（野上校長先生）

コミュニティ・スクールにより、学校教育内容の充実を図ることができます。本校では、コミュニティ・スクール協議会委員である酪農家の廣瀬文彦さんにゲスト・ティーチャーをお願いし、出前授業を行いました。廣瀬さんは、酪農教育ファームの認証を受けており、子どもたちに「酪農を通じた食やしごと、いのちの学び」を届ける活動をしています。今回は4年生を対象に、「牛について」「酪農家の仕事」の講座とアイスクリーム作り体験を行いました。子どもたちは、酪農家の思いを、お話とアイスクリームから学びました。これからも地域の教育資源を生かして、子どもたちの心と学力を高めていきたいと考えています。



廣瀬さんによる出前授業



地域の方々による夏休み中の学習サポート

### 【大空中学校区】（大空中学校 黒島校長先生）

大空中学校・大空小学校では、コミュニティ・スクールとして新たなステージを迎え、学校・家庭・地域が同じ「目指す子ども像」を共有し、義務教育9年間を見据えた健やかな育ちと学びづくりに向け、互いの思いを寄せ合いながら、学校を拠点とした地域との更なる協働を進めていきます。

第1回のコミュニティ・スクール協議会では「日常的な学習サポートができれば」「体験的な学習を増やして」「地域の施設をもっと有効活用できるよう」「ミシンや木工など、手を貸しますよ」など、具体的で楽しく頼もしい意見がたくさん出されました。

### 【帯広第七中学校区】（愛国小学校 森下校長先生）

愛国地区は、地域みんながPTA会員であり、学校の行事には、たくさんの方が応援に来てくれています。3つある町内会の会長さんは、PTAの各会議にも出席され、学校と地域をつなぐ役割を担ってくれています。

本校の「料理の哲人に学ぶ食育教育」は、そんな、学校をとても近い距離から応援してくれている地域の方のアイデアからスタートしたものです。今年から帯広第七中学校区の3校でのコミュニティ・スクール協議会が組織され、より一層頼もしさを感じています。



料理の哲人に学ぶ食育教育